袖ケ浦市蔵波小学校校外学習支援

自然に親しむ秋さがし

日　時：2023 年 11 月 14 日(火)9 時 45 分から 13 時 50 分、天気:快晴
場　所：袖ケ浦市「緑化推進拠点施設」
参加者：1年生 179 名、教職員 8 名
担当指導員:畫間　赤松　尾澤　川瀬　藤田　伊藤

この行事は(公社)千葉県緑化推進委員会の主催で、近隣の蔵波小学校1年生全員約 180 名が 5,6 人ずつ 30 班に分れて、40,000 ㎡の構内で 8 つの自然体験プログラムを自由に回って体験する大規模なものでした。プログラムの企画には畫間さんもメンバーの検討会で行い、当日のスタッフには当会から 5 名、森林インストラクター会から 5 名が参加して行われました。

次々と来る子どもたちの対応に追われ、全体の様子を見ることはできませんでしたが、それぞれ担当したプログラムの感想を記して報告とします。なお写真の一部は千葉県緑化推進委員会から提供を受けたものです。

○午前：活動プログラム、午後：ドングリ拾い

今日を楽しみにしてきた子どもたちが一斉に体験ポイントへ散ると、いつもの静かな構内は瞬く間に活気ある子どもたちの体験広場となりました。スタッフは、次から次へと来る子どもたちの対応に追われました。午後は、様々なドングリを拾い。持ち帰ったドングリは、生活科や図工の授業で使われるとのことでした。担当したスタッフも子どもたちと一緒になって楽しみました。

○葉っぱ遊び（畫間）

今年は落ち葉が少なく、予定していた葉っぱのプールが作れないとのことで少ない葉っぱでも楽しく遊べるようにしました。葉っぱをかき集め、小山作り、飛び越したり、寝転んだり、雪合戦ならず葉っぱ合戦、最後にシートに乗せて一斉に飛ばしました、どの子も葉っぱまみれになりました。

○クズのツル遊び（畫間）

一番人気！ツルを引っ張り合うだけなのに夢中になって何度も対戦していました。大縄跳びは「跳べるかな」と心配しましたが上手に飛んでいました。短いツルの一人縄跳びは 1,2･･･掛け声に合わせて 20 回跳んだ子も･･･。ツルを丸めたリースは近くの葉っぱなどで飾り、さらに小さい輪は輪投げ遊び、ツルとササで作った弓矢は大人気、学校に持ち帰ってみんなで遊ぶ約束をしました。

○ドングリゴマ遊び（赤松）

ドングリゴマはマテバシイ、クヌギ、コナラ、ピンオーク等で作りましたがピンオークが一番よく廻るようで、次にクヌギがよく廻り、子ども達は手に取って廻りを楽しんでいました。次に子どもたちに好みのドングリを探してもらい、それにドリルを使用して穴あけ、楊枝にボンドを付けて差し込んでコマ作ってあげたらその工程が面白いのか子どもたちの行列出来、自分も手伝うと女の子が二人ほど出てきて、ボンドを付ける子、楊枝を差し込む子とドングリ作成行程が自然に出来上がり楽しみました。

〇松葉相撲・松ぼっくり投げ（尾澤）

松葉相撲は、落ちているダイオウショウの葉を使いました。葉をかみ合わせて引っ張り合ってやりました。3 葉松なので、1 回戦、2 回戦とやりました。やっぱり負けた、勝ったと大騒ぎとなりました。葉が大きく長いので、少し相撲に迫力があったかなと思います。松ぼっくり投げは、ひもで大きな丸をつくり、その中に小さな丸を 3 つつくり、そこに松ぼっくりを投げ入れられるか競い合いました。3 回戦までやり、3 回とも入れた子がチャンピオンとしたので、少し盛り上がりました。

〇森でお絵描き（川瀬）

用意された布地はちょうど画用紙サイズ。子どもたちは、葉っぱや石、ドングリなどを使って自分の好みの絵を描きました。完成したら手を挙げてもらい、作品のテーマや工夫したところなどを発表してもらいました。友達の絵を鑑賞した子どもたちは、さらに自分の感性を広げて作成していて驚きました。やはり子どもは自然のものを何かに見立てる力が素晴らしい！　人の顔やウサギの顔、魚や走る車など、様々な絵を描いていました。なかにはダイオウショウの松ぼっくりに木の実を飾り付けたり、立体的な作品に仕上げた子もいました。

〇小石拾い（藤田）

緑化推進拠点施設は今となっては希少価値の川砂利が敷かれた砂利道です。色の違い、形の違い、大きさの違うものを事前に集めておき、並べて較べられるようにして、子どもたちを待っていました。第一陣がやってきました。「小石をひろってね」と声かけしたのもつかの間、「アッ」という間に並べたもの、積んだものを蹴散らして通り過ぎていきました。残念ながら思いは伝わりません。第 2 陣を待つ間、木漏れ日に反射してキラッと光る石があるのを見つけました。日に当ててみるといくつも見つかりました。第 2 陣には「光る石を見つけてね」と促しました。それぞれが見つけたキラッと光る石を持ち帰って、どんな工作をしたのか、袋いっぱいに詰め込んだ子は学校まで重かっただろうなと想像すると、ちょっとニヤッとしました。

〇葉っぱの匂い（伊藤）

ゲッケイジュと夏みかんの葉っぱを自分で少しちぎり取って、においをかいでもらうとともに、机上に並べたカリン（実）、ヒノキ、ギンナン、カツラの匂いを比べてもらうプログラムを担当しました。次から次への来る子どもたちへの対応が追い付かず、引率の先生にも対応してもらいました。「どんな匂いがするかな」との先生の問いかけに、思いもよらない答えも返ってきますが、まず「そんなにおいがしたの」と返してからやり取りをする先生の対応に自然体験活動の本質をみたような印象でした。